

書評 慰安婦のデマ:偽の回顧録、北朝鮮のスパイ、学术界の殺し屋

J・マーク・ラムザイヤーとジェイソン・M・モーガンによるこの本は、学界における慰安婦問題に関する知的不誠実さと検閲の2つの危険性を暴露している。

ロバート・D・エルドリッジ博士



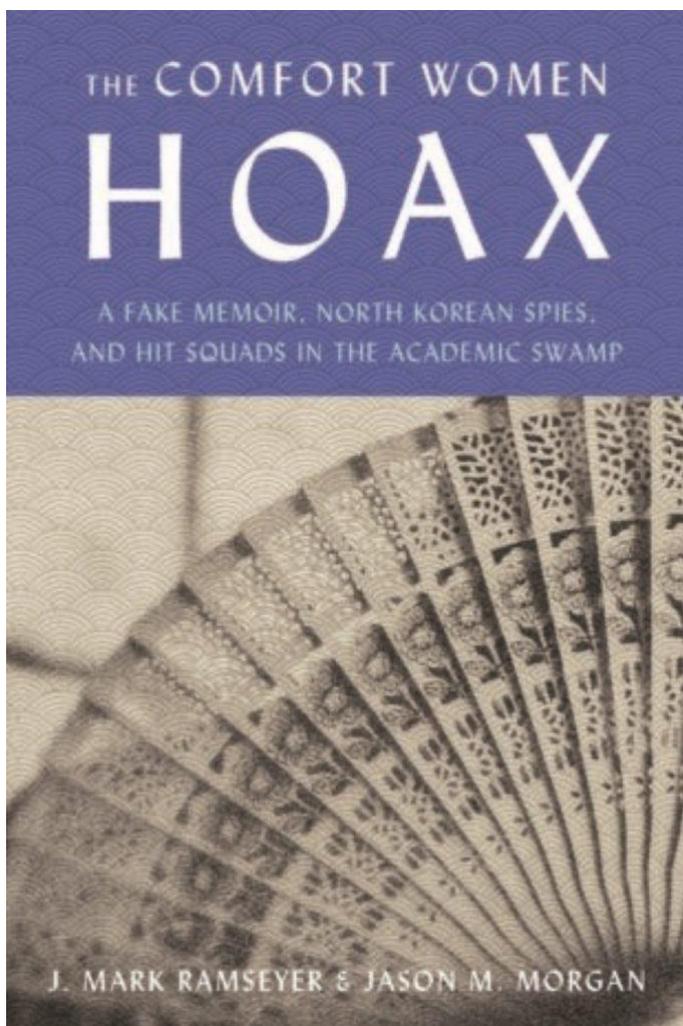
マーク・ラムザイヤーとジェイソン・M・モーガンによる「慰安婦のデマ」のエンカウンター・ブックス出版社のページ。(スクリーンショット)

慰安婦デマは、慰安婦問題の嘘と神話を暴露し、それを取り巻く神話に終止符を打つものです。これは、綿密な多言語・多アーカイブの調査と学際的な協力によって行われます。一方、本書は、学界における誠実さと誠実さの回復と、キャンセルと検閲の終焉を求めている。

J・マーク・ラムザイヤーとジェイソン・モーガンによる新刊『慰安婦のデマ』を読んでいたときほど、怒りから笑いに変わったことはありません。怒りが始まったのは、二人の著者がそれぞれハイエナの手によって高等学院のハイエナの手によって経験したことを初めて詳細に知ったときでした。それは「学問的暗殺者」、暴徒、そして言説や党の方針に疑問を呈する人々に対する取り消しやその他の処罰に同調した愚かな他の人々を指します。

私も9年前に似たような経験をしたので、腹が立ちました。沖縄の左翼や、その支持者である国内外の学者から「キャンセル」されたという不愉快な記憶がよみがえった。そして、国内外のメディアによって。これは、いわゆる「沖縄問題」にまつわる多くの神話が根拠のない、あるいはもはや真実ではないこと

を示すためであった。(実際、私の破門に関与した慰安婦のデマに登場する同じ名前のカップルも、ラムザイヤーとモーガンの経験の鍵を握っていた。



マーク・ラムザイヤーとジェイソン・M・モーガンによる「慰安婦のデマ」の表紙。(エンカウンターブックス社提供)

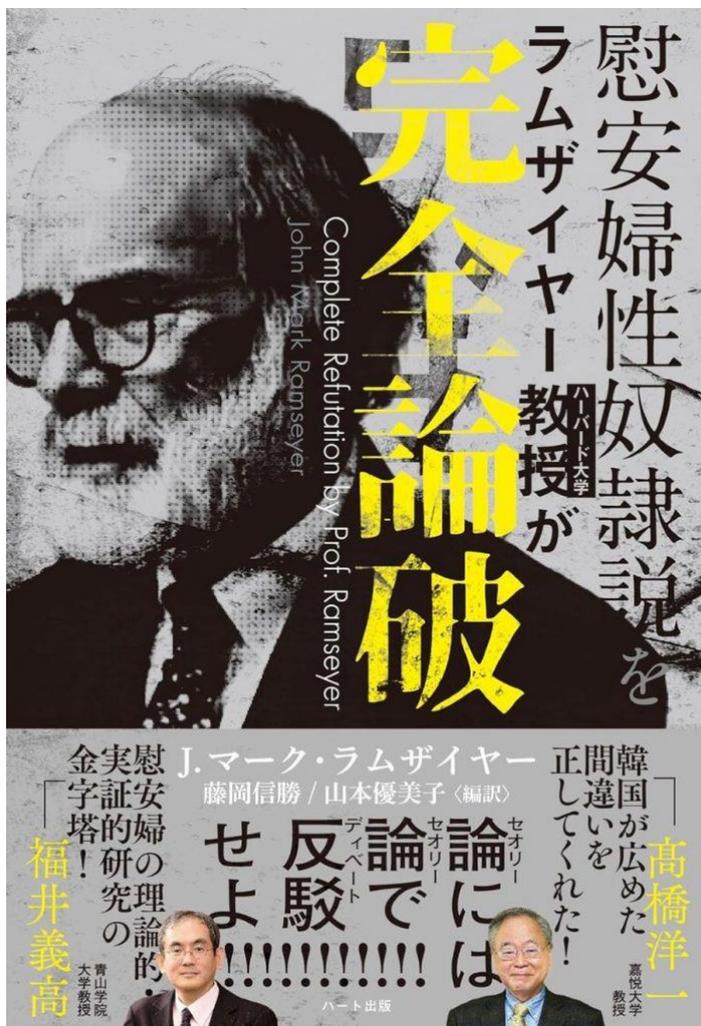
真実を発見するための障害物コース

また、この二人の偉大で勇敢な学者が経験した苦難は、その間に状況が悪化しただけであることを示唆していたことにも気がつきました。

破綻した正統派と戦うことは、歓迎されず、報われないため、特に苛立たしいことです。金銭的な意味ではなく、真実を発見するための時には過酷なマラソンです。私は、おそらくラムザイヤーとモーガンがかつてそうであったように、私たち(私の)仲間の学者たちも、真実を見つけるための同じ競争の一部だ

とっていました。最終的には、全員が自分の役割を果たせたことに満足してフィニッシュラインを越えられると信じていました。

それどころか、特にラムザイヤーとモーガンが経験したように、すでに困難なコースに沿って、彼ら(私たち)の仲間の学者は、彼らを膝打ちし、彼ら(私たち)を後ろから殴り、敵対的な観客にボトルや缶を投げさせ、レース関係者に彼ら(私たち)を失格にするよう圧力をかけ、状況をさらに混乱させたり、彼ら(私たち)を中傷したりするために、メディアや他の人たちにさらなる嘘をつきました。そしてさらに、彼ら(私たち)がレースを走るのを難しくします。



J Mark Ramseyer 教授の批評家への反論の表紙を英語、日本語、韓国語で掲載しました。本書は日本語ですが、英語や韓国語にも対応しています。

「キャンセル」を理解する

「キャンセルの意味を理解する」という章には、特に痛烈な一文が含まれています。それは彼らが経験していたことを説明しており、私はそれに非常に共感することができました。「排斥の過程で、あなたは自分の人生における人々の背骨、勇気、思いやり、誠実さについて、あるいは彼らの不在について学びます」(pp. 211-212)。

同じ章の後半で、著者は学界でキャンセルされている間に何が起こるかについてより詳細に説明しています。「キャンセルで」と彼らは書いています。

あなたが知らない人々はあなたのキャリアを破壊しようとします。知り合いが嘆願書に署名します。そして全体を通して、あなたは未来について何も知らないということだけを知っている。どこまで行くのか、いつ終わるのか、まったくわかりません。朝(時には夜中に)起きて、携帯電話をチェックします。いったい何通、何十通のヘイトメールが届いたのだろうか。

あなたは、あなたのどの記事が次に殺害リストに載るのか、どの出版社があなたの原稿を投下するのか、どの学生があなたが授業で話した悪質なことを学部長に請願するのか、どの組織があなたを理事会から追い出すのか、どのウェブサイトがどのような名誉毀損を掲載するのか、疑問に思うでしょう。次に何が起こるかはわかりませんが、物事が二度と同じになることはないことはわかっています。(230-231 ページ)

そして、同僚を同じように見ることは二度とできないと付け加えておきます。

「否定論者」の正体を暴く

一方、笑いは、本を読みながら体験しました。それは、パターンがいかかに似ているか、そして信用できない証言や情報源を使った主張がいかにかばかっているかを目の当たりにしたときでした。そして、彼らの試みの幼稚な性質。

ラムザイヤーとモーガンが欺瞞という堂々たる壁を削り取っていくのを見るのは満足感があつた。この壁は、学者が真実を見出すことから目をそらしただけでなく、日韓関係を大きく損なうことにもなりました。

最大の動揺の中で、この本のおかげで、告発者が「否定論者」であることが判明しました。慰安婦の「保護者」を自称する人々は、最大の加害者であった。

過去数十年の急進左派による慰安婦の話を利用しようとする試みは、慰安婦自身を最も傷つけることになった。それが最大の皮肉かもしれません。

アカデミアにおける勇気の欠如

私は告発者のほとんどを知りません。また、本書で引用されている日本と韓国の学者も一握り含まれている。しかし、前にも触れたように、私は彼らの同類を知っています。

しかし、同僚の学者の反知性主義的で党派的な行動について読んだとき、私は大きな失望感を感じました。しかし、その感覚は、政治的に偏った出世主義的な動機を持つ「クインテット」(p. 22)とはあまり結びついていなかった。(この5人の学者は、ラムザイヤーとモーガンの著書で特定されている。

むしろ、私の大きな失望は、彼らに同調した人々でした。おそらく、後者のグループは、何らかの形で罰せられることを恐れてそうしたのでしょう。「アカデミー」と呼ばれるアカデミッククラブから話題にされたり、追い出されたり。あるいは、知的に怠惰だったり、もっと悪いことに、臆病だったりするかもしれません。

知性があるのに、その知性を使って正しいことをする勇気を持っていないことほど悪いことはありません。この点で、学者は特に弱い品種です。彼らは道徳的な羅針盤を欠く傾向があり、群れやグループで同行し、その日の請願書に署名する方が簡単または安全だと感じています。

ほとんどの場合、彼らは自由な思想家ではありません。もしそうだとしたら、著者らが述べているように、彼らの行動は非良心的であり、彼らが学者として登録したことに対する違反となるだろう。

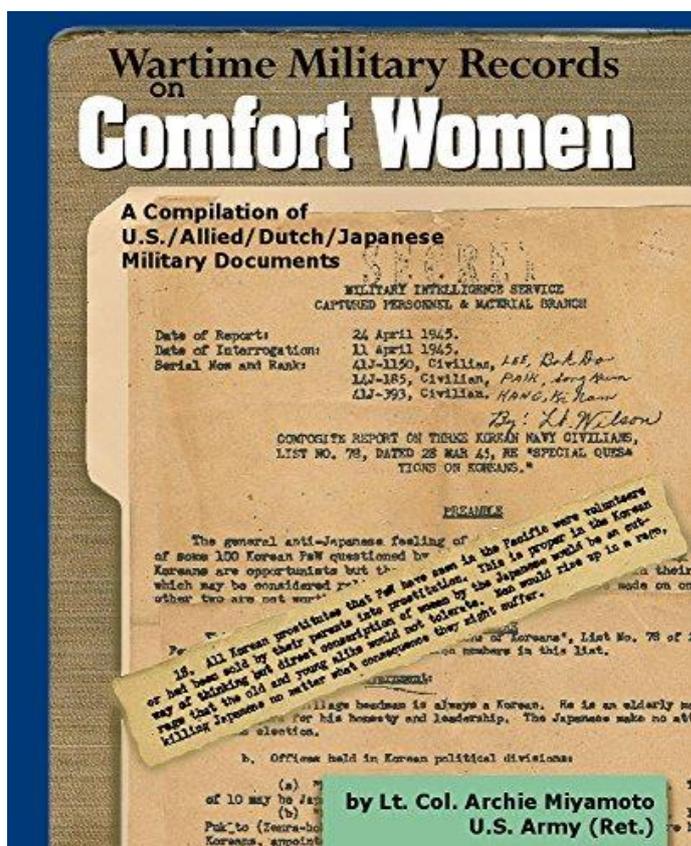
ギャングのメンタリティを解剖する

ラムザイヤーとモーガンは、路上で倒れた男を蹴り飛ばすギャングのように、学者が積み重なったさまざまな請願書や手紙を引用しています。幸いなことに、嘆願書には名前が載っていませんでした。おそらく、これらの個人は特定の手紙や請願書について知らず、署名しなかったのでしょう。あるいは、知っていて無視したり、署名しなかったりしたのかもしれません。アカデミーへの信頼を(少し)回復させるので、後者だと思いたいです。

そもそも、学問的な反論ではなく、手紙や嘆願書を出すという考え方は、この「群衆」のメンタリティの一部です。ラムザイヤーとモーガンは、これをアーミッシュの言葉で「meidung」、つまり「忌避」と表現しています(p. 3)。しかし、日本を含むほとんどの文化でも普及しています。高等教育における忌避の存在は、嫌悪感を抱かせるものであり、原始的である。

アルバート・アインシュタインは、1931年に出版された『アインシュタインに対抗する百人の著者』という本の中で、彼の相対性理論に異議を唱え、「なぜ100人なのか?もし私が間違っていたら、1つで十分だったでしょう」100年近く経った今でも、アカデミーは劣勢に立たされています。彼らは手紙や嘆願書を書くだけでなく、完全に検閲しようとし、ジャーナルを支配して、そうでなければ十分に文書化された記事を拒否したり否認したりします。

米国(およびその他の国)の多くの人々が学者を嫌うのも不思議ではありません。彼らは、学者の脆弱さ、勇気の欠如、ダブルスタンダード、反好奇心、その他の明白な欠陥を見えています。これは日本でも同じですが、それほど顕著ではないかもしれません。



同時期の戦時中の軍事記録も、慰安婦に関する一般的な説と矛盾している。○ (アーチャー・ミヤモト)

不正直と検閲の双子の危険

ラムザイヤーとモーガンの本で特定された個人は、おそらく最悪であることを強調しておく必要があります。また、私たちの中にも、まともで、人道的で、正直な優れた学者がいます。

しかし、この本に登場する人たちは、知的不正と検閲の常習犯です。彼らの不正行為は、文書や通信の使用によって十分に文書化されています。これらは、情報公開法に基づき、学者自身がソーシャルメディアサイトに公に書いたものから入手しました。そして今、この本の出版のおかげで、彼らは最も悪名高いです。

読者はこの本を注意深く読み、自分自身で判断してください。彼らは、知的不正と検閲という2つの危険性に気づくと確信しています。

知的不正は、社会に影響を与える個人的な問題です。検閲は、他の個人に影響を与える社会的な問題です。これらが組み合わさると、壊滅的な結果をもたらします。

しかし、特に、慰安婦に関するラムザイヤーの先駆的な研究を攻撃する人々によって行われている検閲は、2つの面で間違っている。それは個人が話したり発表したりすることを妨げます。また、聴衆が書かれていることや言われていることの内容を聞くこともできません。言い換えれば、彼らの権利も彼らから盗まれているのです。そして、それは大規模に行われます。

幸いなことに、エンカウンターブックスはこの本を受け入れ、出版しました。2024年1月23日に一般公開されました。開示のために、私は別の本を共同編集している共著者のモーガンから直接コピーを受け取りました。また、テレビや印刷メディアでの討論会にも一緒に参加したこともあります。

たとえ私が個人的なコピーを受け取っていなかったり、モーガンを知らなかったとしても、私はまだこのレビューを書いていただろうと想像します。なぜなら、この本は2024年、いやこの10年間で最も重要な本になると信じているからです。

リコンシリエーションの開始

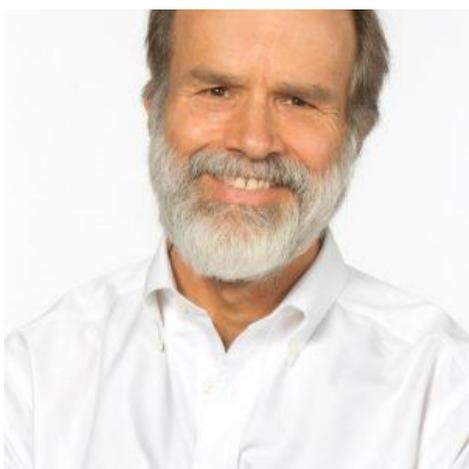
本書は、序論とエピローグを含む10の章に分かれています。「第1章 キャンセルの解剖学」「第2章 慰安所」「第3章 デマ構築」「第4章 デマの崩

壊」「第5章 攻撃のやり直し」「第6章 韓国評議会」「第7章 キャンセルの意味を探る」「第8章 学問の自由」である。

また、Lew Seok-Choonによる序文も含まれています。彼は、同様に党の路線に挑戦した勇敢な韓国の学者の一人です。ルーもまた、似たようなことを言ったために自国で悪意を持って取り消され、法廷に連れて行かれました。

369 ページのこの本は、1983年に吉田誠司が出版した詐欺的な回顧録の影響を説明しています。吉田は回想録の中で、日本兵と一緒に朝鮮人女性を拉致したと主張している。彼の著書は、国内外のメディアによって、歴史と記憶を操作するために利用されてきた。過去40年間、韓日関係を狂わせ、数世代にわたって学界を弱体化させてきた。

東アジアの政治(と国際学問)は、いまだに回復していない。しかし、おそらくラムザイヤーとモーガンの本は、癒し、和解、そして再建のプロセスを真に始めるでしょう。



J Mark Ramseyer 教授 (©Ramseyer)



JINF 授賞式でのジェイソン・モーガン(写真:ジェイソン・モーガン)

この本がもっとうまくできたこと

私がそれについて持っている唯一の批判は、本がもっと早く出なかったということです。また、場合によってはパンチを引いた。

前者の批判については、出版を急ぐのではなく、時の試練に耐えうる確固たる論拠を構築したいと考えた。したがって、彼らは巻を完成させるために多くの時間と労力を費やしました。このレビューの冒頭で説明したマラソンコースを思い浮かべてください。その中で、著者は嘘と神話を注意深く暴こうとしましたが、同時に四方八方から攻撃されました。

さらに、著者は有用な参考文献と脚注も提供しました。また、「慰安婦契約に関する情報」に関する注釈付きの付録も含まれていた。その情報は、現在および将来の研究者が問題を冷静に分析するのに役立ちます。



麗澤大学(日本)の西岡勉教授が 9 月 5 日、韓国・ソウルで開催された慰安婦シンポジウムで講演。(©キム・ビョンホン)

真実の探求を奨励する

著者がパンチを抜いたという私の批判については、著者は基本的にまともな人々だからそうしたのでしょう。彼らは、故意にせよ無意識にせよ「でっち上げ」に同調した批評家のキャリアを破壊したくなかった。

それどころか、彼らはこの物語に「道徳的」なことを警告した。「他人のキャリアを台無しにしようとするのは良い考えではありません。特に、頭の上を飛んで飛んでいるときは、あまりお勧めできません。あなたは間違っているかも

しません - そして、あなたが間違っているとき、神はあなたを助けてください。」(191 ページ)それどころか、彼らは、この本の最後の一文として、「私たちは、私たちの 2 年間で誰にも望まない」と書くことで、さらなる怒りをこらえました。(295 ページ)

その意味では、本書は慰安婦問題や日韓問題というよりは、慰安婦問題を扱っている。むしろ、それは真実の探求に関するものであり、それは非常に危険なことです。特にアカデミアの世界では。そして、客観的で学術的な探究の重要性についてです。すべての学者はそれを読み、そこから学ぶべきです。そうですね。

本について:

タイトル: *慰安婦のデマ*

副題: *偽回顧録、北朝鮮スパイ、アカデミック・スワンプの殺し屋集団*

著者: J マーク・ラムザイヤーとジェイソン・M・モーガン

出版社: エンカウンターブックス、ニューヨーク (2024 年 1 月 23 日)

ISBN コード: 978-1641773454

フォーマット: ハードカバーとデジタル(Kindle)

関連 :

- [慰安婦の真実を取り戻す](#)
- [慰安婦: マーク・ラムザイヤー教授、真実が勝つ](#)
- [李錫春が学問の自由のために決定的な勝利を収める](#)
- [慰安婦: 事実とフィクションを分離する韓国の課題](#)

レビュー投稿者: Robert D Eldridge, PhD

エルドリッジ氏は、大阪大学の日本政治外交史と日米関係の元終身准教授であり、在日米海兵隊の政治顧問を務めた。現在、淡江大学の 2024 年台湾外交部フェロー。

《出典》

JAPAN Forward 2024 年 1 月 29 日掲載 “BOOK REVIEW | The Comfort Women Hoax: A Fake Memoir, North Korean Spies, and Hit Squads in the Academic Swamp”

翻訳 国際歴史論戦研究所 上席研究員 一二三朋子